

おおくらきたいせき
16. 大蔵北遺跡

所在地：敦賀市大蔵地係

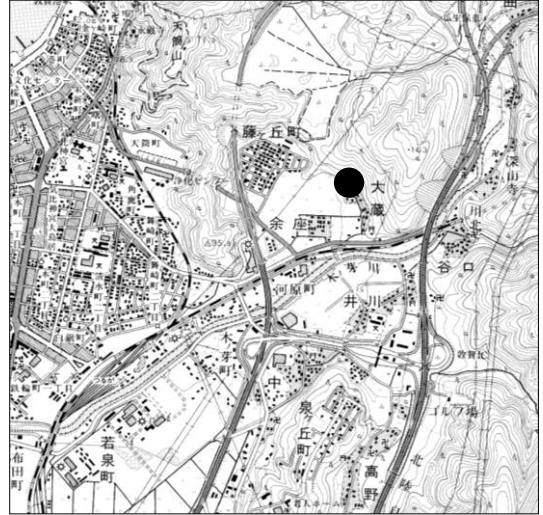
調査原因：北陸新幹線建設事業

調査期間：平成 30 年 8 月 1 日～12 月 28 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：328 m²

時代：室町時代中期～江戸時代後期



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 大蔵北遺跡は深山の南西側、南に伸びる標高約 39mの尾根頂部から斜面及び谷部に広がる中近世墓群を主体とする遺跡です。今回の調査区は大蔵寺の庫裏・本堂の北側斜面、東側谷部分、西側斜面および山裾に位置します。北陸新幹線建設事業による橋脚建設のため発掘調査を実施しました。調査の結果、中近世墓群、石列などを検出しました。

遺構 土坑 9 基、小穴 10 基、人骨を伴う墓穴 1 基、溝 2 条、区画石を伴う近世の墓域 7 か所、区画石の抜取痕 4 か所、石敷状の集石 1 か所、石列 1 か所を検出しました。各調査箇所の概要は以下のとおりです。

大蔵寺の庫裏・本堂の北側斜面（写真 1）は参道や墓域造成のため削平されており、遺構として区画石を伴う近世の墓域や石の抜き取り穴、土坑を検出しました。東側谷部分（写真 2）は地形に改変を加えた痕跡はないので、谷状の自然地形が広がっていたと考えられます。西側斜面（写真 3・5）は約 17 m²の狭い平坦地が広がっていましたが墓地を造成した痕跡はありませんでした。遺構として年代不明の溝、土坑を検出しました。西側山裾には盛土と崩落土の削平によって平坦地が造成されていました。盛土面と削平面でそれぞれ遺構を検出したため、2 時期に渡り利用されていたと考えられます。遺構・遺物は上層（盛土面）・下層（削平面）ともに調査区北側に集中しており、上層（写真 4・6）では石敷状の集石・小穴・土坑・石列を、下層（写真 7）では土坑・小穴を検出しました。なお調査区外北側には火葬に利用したとみられる石囲いが残っており、その周囲には灰が厚く堆積していました。

遺物 五輪塔所刻板碑、五輪塔、楕型墓標など中世・近世・時期不明の墓石が約 100 点出土しました。過半数は地表面から露出していましたが、土中に埋没したもの、石敷状の集石や石列に再利用された墓石もありました。墓石以外では近世・近代のカワラケや陶磁器、流れ込みの古代の須恵器、六道銭として使用された銭貨を確認しました。

まとめ 本年度の調査区域には、代表的な中世石造物である五輪塔所刻板碑、安永の年号が刻まれた近世の楕型墓標が分布し、18 世紀後半のカワラケ等も出土しました。墓域として利用されていたとみられ、造営時期は室町時代中期から江戸時代後期と考えられます。また西側山裾の平坦地は型作りのカワラケの出土や『敦賀郡東郷村誌』の記述から、近代以降利用されていたと考えられます。
(鈴間智子)



写真1 北側斜面 遺構検出状況(北から)



写真2 東側谷部分 完掘状況(西から)



写真3 西側斜面 完掘状況(東から)



写真4 西側山裾平坦地上層 全景(南西から)



写真5 西側斜面 完掘状況(北から)



写真6 西側山裾平坦地上層(北から)



写真7 西側山裾平坦地下層(北から)